のが非常に必要のことであります。年齢が違ふと其間にまた餘程考ふべき事が多くなつて來ますからして、私は成るべく同一程度の者を選びたいと思ふのであります。

双六の話

（今泉雄作氏）

双六は一番古くから知られて居る遊戯で其傳來は未だ確かに夫と考へた人もありませんが私は三韓から渡つたものと推します、双六は元スグロクと云つたもので、スグは則ち高麗音ですから何うも朝鮮から來たものと思はれる、是は往古大流行で專ら上流社會の遊戯であつたが追々中流以下にも及ぼし賭事をするやうになつたで終には禁止された事もある、書記にも持統天皇三年に之を禁じた事が出て居ます其後も度々禁ぜられたが當時は布とか道具とか、品物を賭けた、中には家屋敷を賭けた者もあつた、最初藤原時代には上流にのみ行はれ追々下等になつて足利時代にも双六を博奕に用ひて居た又鎌倉時代に佛法双六といふのが出來た、之は前の双六の變化したのです天台宗のやうな名目の多い宗教で其名目を一山の子僧達に覺えさせる爲めに造つたのである、賽も一二三の代りに南無諸佛分身の六字を用ひてある、是と同じ双六だが足利中世に至つて地獄といふ場所を拵へ其處へ入つたものは再び出る事の出來ぬ規則を設けた双六が出來た、ヨウチン（永沈）双六といふのは是です、夫から德川時代に道中双六が現はれた、確か貞享頃と思はれます

幼稚園問題

和田實

先年師範學校令が改正されて所謂保育法と云ふものが全國各師範學校に於る教育科中の一要目となつたけれども教育界に於ける幼稚園論は今尚未定の問題である。甚だしいのは現在幼稚園に保姆の職を採つて居る人でさへ幼稚園に關する理想や見識を建てることが出來ないで單に前人の形式を逐ひ方法を模倣するに過ぎないものが多い、況んや根本問題と來ては矢張御同樣半信半疑の人であると云ふに至ては、斯道の爲め慨せざるを得ない。

全體幼稚園と云ふものは教育上何れ位の效果を奏し得るものか、其必要なるは上流社界の爲めか若しくば下流細民の爲めか、抑も亦一般の世人の爲めか等の問題を初めとし、種々な幼稚園問題を解決することは目下の急務ではなからうか、吾人は之を解決せりと云ふ譯ではないが、隗より始めと云ふこともあるから一と通りの意見を呈出して

先進の教を乞はうと思ふのである。

一幼稚園の効果

幼稚園教育の効果は何うであるかと云ふ疑問、換言すれば同じ小學校の生徒でも幼稚園を經て來たものと直接家庭から來たものとの優劣は何んなであらうかと云ふ問題は從來最も多く吾人に向つて發せられた疑問である。そして世人の多くは此結果を以て幼稚園問題を根本から解決し樣として居る樣に見える。併し此考は餘り適切な考ではなかつた。勿論從來の幼稚園教育の方法が悉く失敗に了つたと云ふことを證明するには充分であつたとは云ひ得るけれども之を以て直に幼稚園其物を否定することは出來ない。甚だしいのは自分は教育者でありながら幼稚園を以て却つて教育上有害なものであると主張する人もあるが、是も現在の一般幼稚園の實際を參觀して現在の保姆の活動に嫌らない爲めと云ふならば無理もない話で、此點に於ては吾人も大に同情を表さなければならないが、併し之とて直に幼稚園其物を否定するのはちと早計である。

要するに從來に於ける幼稚園の効果は顯然たるものがないと云ふことは出來るが未だ以て將來の幼稚園を否定する程に有力な反證は擧らないのである、それは人に因ると幼稚園から來た生徒は早熟であるとか、人に狎れ易いとか、遊び半分で行かぬとか色々な攻擊を加へる人があるけれど之は皆晩くも半年か一年の間には消えて仕舞ふ問題でつまりは教育者其人を得ず教育の方法又宜しきを得なかつた爲めではあるが未だ以て幼稚園其物を非定する材料にはならないのみならず、今日に於ては教育の理論も方法も可なり進歩して來て居るから此理論を尋ね方法を應用して掛かれば確かに一道の光明を前途に認めることが出來る。從つて幼稚園の根本問題に關する理想は現在に於て建設せられ得可きものであると信ずるのである。

二、普通教育の一機關としての幼稚園

谷本博士が嘗て京阪神聯合保育會で幼稚園に就て演說された中に次の樣な一節がある。

日本今日の狀態から云ふと幼稚園は素より大だ入用でありませうが私共の子供には要らぬ。斯う云ふと私の家庭は善良であ

ると云つて誇る樣に思はれますが強ちさう云ふ譯ではない。併し乍ら私の家庭の子供は幼稚園に上げるには及ばない、今日幼稚園の入用なのは一面は上流社會の兒童であると思ふ之れは名は上流社會であるが實は我々の中流社會に比べると云ふと大々下流であるので上流社會の内には往々子供を幼稚園にやらずしてお傳とかおんばとかを附けて無法に子供を育てゝ居るものゝありますが夫れでは子供を利巧なものにしやうとして、却つて惡るくする樣なものでありまして實に上流の家庭に生れたものは氣の毒なことである。上流の家庭に向つては幼稚園は必要であると申すのであります。併し之と同時に幼稚園は下等の家庭に向つても必要であると云ふのであります。傳引きや其日稼ぎの下等社會のものが其子供を放任して置くのを見ると云ふと我々は常に涙がこぼれるのであります。故に是等の下等社會の子供を幼稚園に入れるのも尤も必要であると思ふのであります。中流社會は第二にして宜しい然るに日本に於ては上流の者も幼稚園へ行かなければ下等のものも行かないと云ふのは一つ考へて見なければならぬことゝ思ふのであります。

此谷本博士の演說が原因をなしたものか阪神地方の多くの保姆の中には幼稚園を以て特殊の敎育機關の如く心得て、普通一般の家庭には不必要である故に自分の子供は幼稚園には出さぬと云つて得々として誇つて居るものがあるそうである。若し果して然りとしたならば幼稚園は單に社會一部の人の爲めに設けらる可き特殊敎育機關で感化院や盲啞學校などゝ撰ぶ所のないものとなつて仕舞はなければならぬ。是が果してフレーベルのであつたらうか勿論フレーベルの敎育說は今日に於ては既に取るに足らぬに相違ないと云ふことは恰もヘルバルトの敎育說が今日の學界に捨てられて居るのと同じである。併し今日の學界に捨てられたからとて敎育史上に於けるヘルバルトの効績は之を沒することが出來ないと同じ樣にフレーベルが幼稚園を創設するに至つた所の其動機的趣旨に至つては千古に輝く可きもので決して捨つ可きものでない。從つて幼稚園なるものが特殊の敎育機關として生れ出たものでないと云ふことはフレーベルの傳記が之を證明して居ると云はねばならぬ。斯く云ふと難者或は夫れは狀況論である。未だ以て幼稚園の一般敎育機關たる議論にはならない。と云はれるかも知れぬ。實際以上の所論は單に狀況論に過ぎないが併し翻つて現在の敎育學上より考へても確かに幼稚園の一般敎育機關たることは之を承認することが出來る。と云ふ譯は敎

育學總論にも論じてある通り教育は一個の技術である。然も今日では漸次專問の技術となつて來て居る。之を往昔の教育法に較べて見ると理論は精しく方法は綿密であるから相當の練習を經たる教育家には到底素人の及ぶ可きでない。故に家庭の事情の許す限りは成る可く速に之を教育家の手に托するのが安全である。決して小學校に行く迄放任して置く可きでない。人或は母親が多少教育思想を有するならば家庭で少し注意すれば、却つて幼稚園以上の成績を得られる。

と云ふ人もあるが、之は其母親の技術次第の話で議論にはならぬ。世間多くの母親の中には專問家以上の教育思想あり教育術を心得て居る婦人もあらうから斯有なことは出來ないとは云はれないが併し稀であつて決して普通一般には求められる筈はない。數少き教育家の子弟は別にして置いて普通一般の家庭よりしては矢張成る可く早く專門家に托するのか有利であると云はねばならぬ。且又母親なるものが如何に子女の教育に熱心であるからとて一人の子使にソーは付きに就いて世話をすると云ふ譯には行かぬ。生殖には時期があるから長子が三四才に達する頃には第二子第三子が首を出して來るので否でも應でも生長した長子は先づ措いて赤子の世話に手間隙間掛けねばならぬことゝなる、然るに三四才に達した長子は盛んに暴ばれ回つて一寸も目が離されない殊に子供は一人では遊べないで何かと遊對手を要求して仕方がなければ母親を友達に仕やうとする。斯うなつては何うしても一日の中數時間は長子の教育を分擔して呉れる人を求めずに居られぬ、是が自然の順序である。幼稚園は此自然の要求に適應して居る所の教育機關で畢竟、普通一般の家庭の爲めに當然なくて叶はぬ教育機關である。家庭に閑暇の人多くて子女の世話に手を欠かない處ならば或は是等の機關を除くことが出來るかも知れないがそれとても專門の教育家以上に誤りなき方法を以て幼兒を導き得るかと云ふことは末定の問題である。要するに幼稚園なる教育機關は普通一般の家庭に極めて必要なるものであると云はねばならぬ。唯

茲に因ることには現在の各幼稚園に於ける保育方法の極めて不合理なることの多いことである。世の幼稚園非難者の多くは此方面から切り込んで來られるので誠に閉口する。實際吾々の眼から見ても現在に於ける一般幼稚園の教育法は實に飢暴なものが多い、けれども之は幾等でも改良することが出來る方法が惡いからとて幼稚園其物を非定するのは角の爲めに牛を殺す類であらう。

三、幼稚園の本領

智識技能を授與することを活動の中堅として教育を施さうと云ふのが學校の本領であるとしたならば幼稚園の本領と云ふ者は何であらうか。是の解決が異るに從つて幼稚園の根本問題に變動を生ずるのである。從つて幼稚園問題の中では大切な問題である。現在多くの稚幼園を參觀して見るに何處の幼稚園でも最も重きを置いて居るものは何であるかと云ふと手技である。手技を中心として之に談話や唱歌や唱歌遊戯をあしらつたものが即ち幼稚園である。所謂フレーベル式の幼稚園は皆斯うである。換言すれば幼稚園の本領は作業を中堅とした教育と云ふことになる樣である。併し是は合理的ではない。成程作業は子供の悦ぶものに相違ない。けれども之を幼兒の活動の全體から見ると極めて小部分で此他に智能的の遊戯や模倣的の遊戯が頗る多いものである。從來フレーベル式の幼兒教育法が無理押付けをする場合が多かつたのは畢竟餘りに作業的であつたからで幼兒の自然活動には不適切であつたと云はなければならぬ。

次には近時米國あたりに盛に行はれる處の所謂新式幼稚園と云ふ側の教育法である。例を上げて見ると先づ一つの話をするとする。そをすると次には其話を主題として之に因める唱歌をする。次には之を材料として話中の何物かを手細工に因つて發表させる。尚進んでは其話の筋道を劇的に實演させて遊ばすと云ふ風で、名けたらば統合主義とでも云ふ可きである。そうして此主義の教育法の特に注意す可き價値のあるのは其遊ばせ方が多方面で決して一種の遊戯のみを重視すると云ふことのないのと、且つは幼兒の興味を主として考へて如何にせば子供に最も面白かる可きかと云ふて

とには餘程苦心して居る樣に見えることである。是は從來我國に於ける幼稚園が多くは舊式の範圍を脫することと遠らざるに對しては一段の進歩であると云はなければならぬ。即ち幼兒の遊戯其物を主體として之を多方に扱ひ其興味を充分に發展しやうと云ふのであるから手技中心の舊式に比しては大なる相違で幼兒の幸福は之が爲めに非常に進歩する譯である。我國にも近時此主義が漸次輸入せられて現在私行廣島女學校附屬幼稚園では盛に之を實行して居るし近くは女子大學の幼稚園でも此主義で遣つて居るさうである。併し此主義に缺點があることを免れない。殊に此主義を實行して居る人の考は吾人の着眼點と全然相容れないのは遺憾である。吾人は其遊戯主體たる處に此主義の進歩を認めて居るのに此主義の人は却つて其人爲的にして價値少なき統合主義を以て無上の旗幟として居る。是は大に研究を要する所であらう詮ずる所我國の從來の幼稚園は毫も幼稚園の本領を發揮して居らず。現在の幼稚園も多くは五里霧中に彷徨して居る樣に見える。そこで將來の幼稚園は

如何にと云ふに吾人は徹頭徹尾幼兒の遊戯を指導すると云ふことを以て其本領として活動しなければなるまいと思ふ。換言すれば幼稚園は即ち幼兒遊戯場、幼兒教育者は即ち遊戯指導者と云ふ意味に於て活動しなければなるまいと思ふのである

何故幼稚園は遊戯を本領としなければならないかと云ふに一口に云へば幼兒の活動は遊戯の外に何物もないからである。幼兒は食つて寢て遊ぶ動物であると云ふより外には何等の意味をも付け加へることは出來ぬ。從つて之れ以上強いて付け加へられたる課業は畢竟無意味のものである。此無意味の者を付け加へて騷いだ處で何の効があらうか。人に因ると幼稚園は遊戯を利用して智德を養ふ所であると云ふ。成程、尤も至極の道理ではあるが是は程度問題である。兎角利用など云ふと極端に走り易いので困る。フレーベル自身も此弊に陷ぬつて遂に利用を通り越して惡用に迄至つて居る位であるから幼兒教育者は餘程注意して善良なる遊戯に因つて幼兒を感化誘導することを專らとして決して遊戯の上に一種の重荷を添加しない

樣に氣を付けねばならないのである。

四、幼稚園に對する非難

從來幼稚園に對する非難と云ふものは可なり澤山あつたことを記憶する。今其中の重なものを上げて吾人の愚見を開陳して見樣、

(一)幼稚園は幼兒を早熟にする傾ありと云ふ非難

此攻擊に對しては吾人は先づ冒頭に「從來」の二字を冠してほしいと思ふ。事實從來の幼稚園は幼兒を早熟にして居つたに相違ない。否現在も多くの幼稚園では矢張り日々幼兒を早熟せしむることに骨折つて居るかも知れない。何故と云ふに從來の幼稚園は實際或意味に於ては學校であつたからである。保姆は或細工を敎へ或話をして專ら技能と智識とを授與することに努めたからである、其結果は彼等幼兒を早熟せしめたに相違ない此弊風は今日でも處々に行はれて居つて中々拔き難いものになつて居る。殊に此弊風を改め難からしむる原因が今日でも二つある。故に此二つの原因を芟除せざる限りは先づ當分の中は幼稚園をして此弊風より脫せしむることが六ケしいだらうと思ふ。

二つの原因とは何であるかと云ふと第一は現在保姆の技量が足りない、殊に幼兒敎育者としての專門の敎育術が不足なことである。勿論多くの保姆の先生の中には立派な方が幾らもある。皆何れも普通學の力に於ては申分はないのである。又其敎育の技術も舊式の保育法から考へたら皆夫れ〳〵專門の技量を有せらるゝに違ひない。成程恩物の工夫は中々達者に遣られるに相違ない。唱歌も達者であらう動作遊戲も數々御存じであらう、然も是等の智識技能を以て敎授することなく彼等幼兒を敎育する方法は果して能く研究せられてあるか如何。是點が吾人が現在の幼兒敎育者に對して不足を感ずる所である。一體人に事物を敎授するに因つて人を敎育し樣と云ふのは其敎授す可き智識技能だにあれば易々たるものであるが、何物をも目立つて敎授することなくして然も彼等を敎育し樣と云ふのは決して容易の業ではない。幼兒敎育は前者でなくて後者であるのに從來の幼稚園は主として前者の方法を取り來つたので、現在の多くの保姆は敎へて敎育するの法を知つて居るが

教へずして教育するの法は之を知らぬものが多い故に將來の幼稚園をして妄りに教ふることなからしめんには先づ現在の保育方法其物を改良しなければならず。同時に現在の保姆をして此點に修養を積ましめなければならぬ。是が中々の困難である。今一つの原因は父兄の誤解である。或父兄は未だに斯う云ふことを考へて居る即ち幼稚園も教育である以上は幼兒は幼稚園に出でゝ何物か得て來なければならぬ。と云ふのである。そして子供が幼稚園から歸つて來れば直に今日は何を教はつたかと聞く、子供は何物かを提供しなければ具合が惡い、そこで幼稚園では之に應じて何物か御土產になるものを教へ樣と云ふ傾きがある。殊に私立の幼稚園などでは營業上是非なくも日々何等かの細工物を持たして歸すと云ふ位で此弊害も當分は改めること頗る難いのであらうと思ふ。兎に角幼兒早熟の弊害は從來の幼稚園には確かにあつたので將來大に注意しなければならないのであるが併し根本の責任は本邦人の一般が負擔しなければならないのである、何故と云ふに邦人は一般に子供の早熟したのを喜び大人らしく振舞ふのを褒める傾があるから會々此弱點が幼稚園に發露したるに過ぎないからである。

(二)幼稚園出身の兒童は遊び半分に物事をすると云ふ非難　此非難も從來は確かにあつた弊害であることを白狀しなければならぬ。現在も此弊害は中々盛んであると思ふ。一般に直接家庭より出て來て就學した兒童は頗る眞面目なものである。何故幼稚園出身者が遊び半分であるかと云ふに是は幼稚園の教育法が然らしめるので誠に是非ないことゝ云はなければならぬ。誰れでも幼稚園を參觀して御覽なさい。遊びをして居るのか、稽古をして居るのか一寸判斷に困るものである。事實幼稚園の仕事は遊び半分に稽古半分である。或意味に於ては遊びでもあり、稽古でもあると云ひ得る樣な極てめ曖昧なことをして居るのが今の幼稚園である。殊に幼稚園の最上級即ち最年長の幼兒を集めた一團は何處の幼稚園へ行つて見ても机の並べ方からして保姆の態度迄が宛然たる學校である。そして其仕事は手遊びを遣つて居る。是では幼兒

が稽古を遊び半分にするのは當り前の事と云はねばならぬ。併し是は幼稚園の本領ではない。幼稚園の本領は前節に於て述べたる如く遊戯である。既に遊戯が本領である以上は課業的稽古的の分子は幼稚園から除くのが適當であると思ふ否除かなければなるまいと思ふが併し或一部の人は之に反對するので何うも思はしい結果が上らない。其反對と云ふのは斯うである。凡そ教育の進歩と云ふものは不斷であり斜面的である、決して或時期を劃して飛び上るものではない。幼兒の最初の遊戯は漸次進歩して課業的にならなければならぬが夫れも決して小學校に出席する前後一日の間に於て格段に變化す可きでない。幼稚園の終り頃に於ては最早稽古的に何かしても宜しい筈である、と斯う云ふのである。此議論の前半は誠に尤もな議論であるが後半は全然誤つて居ると云はねばならぬと云ふ譯は若し果して此議論通りにするとすれば現在の小學校令施行規則は之を改正して幼稚園が今少し小學一年級の教科目を蠶養してよい筈である。同時に小學校の一年級は大に幼稚園的に遣つて呉れなければならないのである。之をせずして唯幼稚園の終り丈けが學校の樣な學校でない樣な何とも形容の出來ない鵺的な事をするのは徒らに此制度の美を害するものであるのに注意しなければならぬ。

吾人は思ふ我國の制度が幼稚園と小學校とを全然區別して相侵す所なからしめたのは大なる美點である。幼稚園は徒らに他の仕事を蠶養せんよりは宜しく自家の特點を大に發揮す可きである。と斯ふ思ふのである。以上二つの缺點は實際あることで何とも辯解の仕樣のないものであるが是れは充分改良することが出來樣と思ふ。尚此外に幼稚園に對する非難は計へ上ると幾つも輩出して來る箇條書に列擧して見ると

一、幼稚園出身者は人に狎れ易し

一、幼稚園出身者は教師を以て友達と心得て居る。

三、幼稚園出身者は見聞狹し。

四、幼稚園出身者は惣に教材を半ば知り居ると多き爲めに勉學熱心ならず。

五、幼稚園出身者は不從順なり。

などが重なものである。が何れも現在の保育方法を改良することに因つて改善の見込が充分に存するものであるし、殊に第一及第五の兩項は保育者其人を得さへすれば此の憂もない筈である。

五、小學校との連絡は如何にす可きか

幼稚園が普通の教育機關であるとしたならば夫と小學校とは如何に連絡す可きかといふ疑問を生するが是は然したる問題でない。吾人は別段考慮する必要を認めないのである。何故と云ふに幼稚園は其形に於てこそ學校に似て居る樣であるけれど其性質は全然家庭の中に屬す可きもので幼兒の生活狀態より考へても強ひて家庭と異らしむ可き必要を認めないのであるから其爲る仕事も決して學校の範圍を冒したり其領分を蠶食する樣なことは有る可きでない。從つて何も樽俎折衝を重ねて兩者の連絡調和を人爲的に規定しなければならぬと云ふ込み入つた問題ではないのである。或は學校で教へらる可き唱歌等を幼稚園出身者が既に知つて居ると云ふ樣な事があつて教授に興味がないと云つて不平を云ふ人もあるが、こんな詰らぬ攻擊は採るに足らぬ事で何も知つて居るものを強ひて教へなければならぬ譯でもないから斯る場合にはドシ〳〵他の教材を撰んだら濟むことである

又或人は訓練上に於ける連絡を規定する必要があると云ふが是も規定する必要よりは家庭と學校とに於ける訓練上に如何なる相違があるかを觀察すれば幼稚園訓練の任務及範圍は自ら解決せられる筈で殊更に幼稚園と學校との間に調和を缺く樣な憂はない筈である要するに幼稚園と小學校との連絡は決して心配する程の問題を生ず可きものではない。

以上は幼稚園に關する刻下重要なる問題二三に就て聊か愚見を述べたのであるが、尙折を見て他の問題にも及ばふと思ふ。希くは世上博雅の君子批正を吝む勿からんことを。（完）